

Advertising Works

2004年クリスマスキャンペーンは、“きらめき”、“ワクワクする気持ち”をテーマに、パーティシーンのビジュアルを作成、佐藤江梨子さんにご登場いただきました。

2005年新春は、テリー・ジョンソン氏のイラストで、元気な正月を表現しました。

2005年春キャンペーン、札幌PARCO新館オープンは、“アクティブな女の子”、“for your upgrade”をテーマに、“楽しさ”、“躍動感のある”ビジュアルを、さらに夏キャンペーンへとシリーズで展開していきます。

2004

■2004年クリスマスキャンペーン
[VERY CHRISTMAS PARCO]



2005

■2005年冬
[PARCOグランバザール]



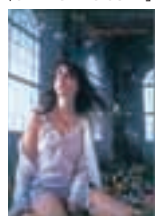
■2005年新春
[A HAPPY NEW YEAR 2005]



■2005年2月
[パルコバレンタイン]



■2005年春第一弾
[SPRING HAS COME]



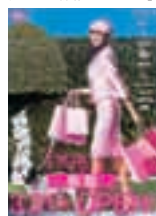
■2005年春キャンペーン
[www.parco.co.jp for your upgrade]



■2005年3月
名古屋・岐阜パルコ[パルコレ]



■2005年3月
札幌パルコ新館オープン
[PARCO新館 3.31OPEN]



■2005年春デニム企画
[www.parco-denim.com]



■2005年春メンズキャンペーン
[VERY GOOD MEN]



PARCO

株式会社パルコ

〒150-0042 東京都渋谷区宇田川町4番3号

TEL: 03-3477-5731 (総務担当)

<http://www.parco.co.jp/>



第66期事業報告書
2004年3月1日～2005年2月28日



新生パルコへのブレイクスルー

収益事業創出の第一歩、改革は新たなフェーズへ。

代表執行役社長 (CEO) 伊東 勇

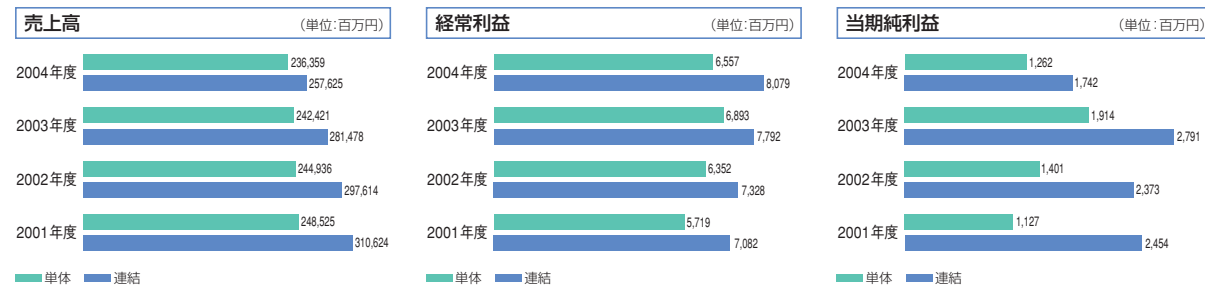
市場認識と業績評価について教えてください。

2001年4月より、本業強化に向けた“経営構造改革”に取り組みました。2004年度は、株式会社ウェイクの売却や自己株式の売出し、減損会計の早々期適用を実施し、「財務体質の改善」を進めました。

グループの収益の柱となるパルコ単体の既存店舗においては、大型改装を続けた結果、改装した売り場の売上げは非常に高い伸びをみせています。しかしながら、それが全体の売上げを大きく押し上げるには至っていません。それだけ、国内の小売市場が厳しい環境に直面しているのです。こうした環境変化の中で、従来の改善程度では通用しない状況が生まれています。すなわち、増収増益に向けた事業の再構築が急務の経営課題となっているのです。

現状の経営課題に対し、どのように取り組もうとしていますか？

従来からパルコでは、経営構造改革を進めるにあたり、経営の透明性・公正性の向上を主眼とするコーポレートガバナンスの改革に取り組んできました。2003年度から商法改正に合わせ「委員会等設置会社」への移行を行いました。さらにミッションカスケードという仕組みを導入しました。これは、私が掲げたミッションを達成するために、まず各執行役がそれぞれの立場で年度ごとのミッションを具体的に約束し、さらにマネージャーや店長が執行役のミッションを実現するためにミッションを表明するというものです。こうした仕組みと共に「委員会等設置会社」としての機能を適切に果たすことで、経営の透明性が高まり、外部の評価を得ら



れるようになったことで、良い意味で経営の緊張感も増したと感じています。

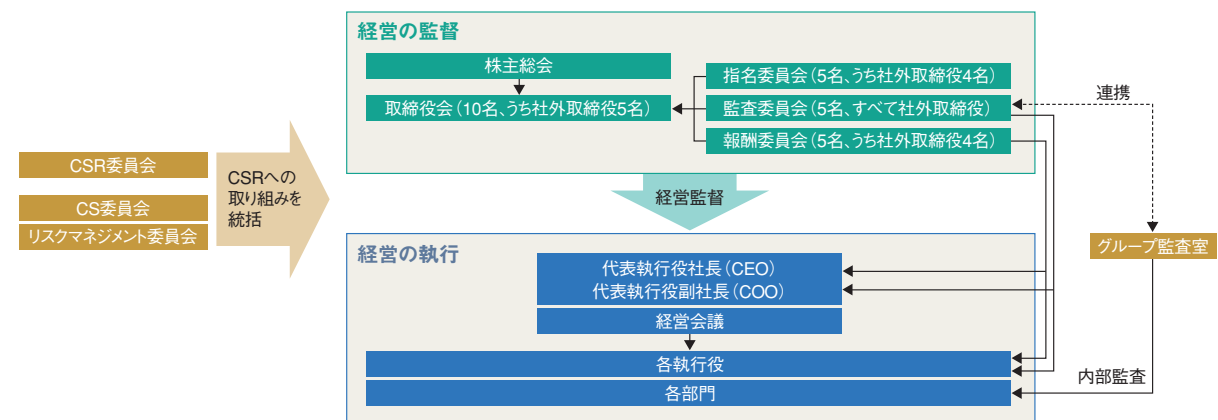
さらなるガバナンスの強化と経営の透明性向上を図るため、2005年度より社外取締役として、現・日本IBM株式会社取締役専務執行役員である内永ゆか子さんに参加いただくことを決定しました。これにより、社内取締役と社外取締役を5名:5名の同数とし、女性の観点からパルコにおけるCSやCSRへの取り組みを評価いただきたいと思います。

経営の執行の面においては、2005年度からCEOとCOO

の新設を決めました。CEOが当社ならびに当社グループに関わる経営全般の方針および戦略の立案を行う最高経営責任者としての役割を担い、COOが決定された経営方針および戦略に基づき業務執行を行う最高執行責任者とする。業務執行の迅速化と一層の透明性向上を図っていきたく考えています。

さらには、パルコの内部監査室とグループ主要子会社の監査室を統合して「グループ監査室」とし、パルコ単体だけでなくグループ全体の監査機能を強化していきます。

経営の監督と経営の執行の仕組み (2005年5月30日現在)



2005年3月に新設した、私が委員長を務める「CSR委員会」は、グループのCSR(企業の社会的責任)への取り組みを総括し、活動の方針・優先順位等を決定する機関としての役割を遂行します。そのために、CS(顧客満足)委員会とリスクマネジメント委員会をその専門部会として組織し、遵法・企業倫理に基づいた行動、コンプライアンス、リスクマネジメント、社会貢献活動、環境保全の各分野での取り組みを推進していきます。

今後のグループ経営計画について教えてください。

2005年度より、5年後のPARCOグループの経営目標(右表)を掲げた新しい「中期経営5ヵ年計画」をスタートしました。第一には、収益の柱である既存19店舗の売上げを維持し、さらに新たな柱となるPARCOの新店開発を進めること。第二には、M&Aやプロパティマネジメント(PM)事業などの新しい手法、ディベロッパーとしてアセットマネジメントも含めた不動産開発まで視野に入れて、開発のレンジを拡げていくこと。第三には、周辺ビジネスの可能性を追求し、新しい収益事業の育成にトライアルすることです。また、各テーマのねらいは以下の通りです。

テーマ1：新生「PARCO」の創造へ—商業施設運営力と開発力の強化

渋谷店における先鋭的な宣伝手法やリーシングを全国の19店舗でも取り入れるスケールメリット活かしたオペレーション——これが、従来PARCOが推し進めてきた運営手法で

経営目標(連結)			
	2009年度 目標	2004年度 差異	2004年度 実績
売上高	300,000	+42,375	257,625
経常利益	12,000	+3,921	8,079
当期純利益	6,000	+4,258	1,742
ROE	8.2%	+5.2%	3.0%

した。これに対し、数年前からPARCOは、よりマーケットに対応したMDを展開すべく、店長への権限委譲を進めて、素早く対応するオペレーション(=「ストアby スタア」政策)により、店舗の活性化を図ってきました。これをより高度化すべく、従来の高付加価値型の店舗とそれ以外の店舗をグループ핑してオペレーションを変えていく施策を講じることにしました。例えば、各店舗単位でテナント交渉するのではなく、グループ핑された複数の店舗を1つの単位として、テナントに対して企業対企業の交渉を行うなど、PARCOの企業力を活かしたオペレーションを行っていきます。また、店舗によっては、本部のコントロールによるオペレーションに切り替え、現場の人員を最適化してオペレーションコストを低減することもできます。当期は、こうしたオペレーションの変革に着手していきます。

さらに、新店開発については、2007年度浦和、2008年度仙台の開業に向けて、それぞれ開発を推進していきます。

テーマ2：強みを活かし新領域へ—新規ビジネスの育成と挑戦

拡大する不動産流動化ビジネスの動向を見据えたPM事



業やアライアンスによる新業態開発など、「PARCO」にこだわらない新事業領域へのトライアルが必要と考えています。2004年度は、2005年秋開店予定の株式会社イトーヨーカ堂の「川口並木SC(仮称)」について、PM受託を前提とした開業前支援業務を受託し、増収増益に向けた新たな基盤づくりの一步を踏み出すことができました。

PARCOは毎年、平均して1万5,000坪もの既存店改装を行い、「市場対応」を絶えず続けてきました。こうした取り組みを36年間にわたって実施する中で培ったオペレーション力——人気ブランドの開発や新規導入のスピード対応、店舗の鮮度維持など、消費者に飽きられない店舗づくりの

オペレーション。またエンタテインメントやイベントなど、物販との相乗性によりお客様の回遊性を高めるノウハウの蓄積が、今、小売市場で必要とされているのです。

テーマ3：市場変化を捉え、多角化へ—周辺ビジネスの深耕拡大

PARCOグループは、これまでグループとして発揮されるシナジーという基準のもと、再編に取り組んできました。各社は各々の利益拡大を目指すとともに、PARCOのディベロッパー事業をサポートする機能としての役割を担っています。

今後はさらに、グループの成長を見据え、新規事業の立ち上げを積極的に検討していきます。

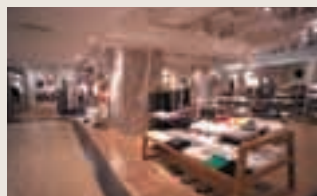
最後に、今回の計画を達成するためにも重要な経営資源は“人”であると考えています。小売業は短期的に成果を問われる業種ですが、そこだけを追求しても持続的な企業の成長は望めません。小売市場が大きな転換期を迎え、「ディベロッパー、PARCO」の真価が問われる今だからこそ、「先取る、仕掛ける、刺激する」というPARCOが本来持つDNAは、先鋭的な店舗づくりにのみ発揮されるのではなく、PARCOという企業の10年後を見通し、未来を形づくる力として発揮されるべきだと強く感じています。こうした想いを全社員とともに共有し、「中期経営5ヵ年計画」の実現と、さらにその先の10年後のPARCOに何が求められているのかを見据えた“人財育成”を同時に図りながら、着実に経営構造改革を進める所存です。

札幌でNEWスタイルを楽しむ新館誕生！ 30年の蓄積を次なるPARCOの創造へ。

72年の札幌オリンピック開催以降、市内主要導線となる地下鉄3線が順次開通し、札幌市内の都市化が急速に進み始めた1975年、『札幌PARCO』は、現在この3線が交差する「大通り」駅至近、市内主要幹線のターミナル立地という好条件の中でオープンしました。渋谷・池袋に続くPARCO3店目で、地方への初進出店だった『札幌PARCO』は、東京の先鋭的なファッション・トレンド提案を持ち込むトレンドセッターとして、札幌のヤング層に受け入れられ、「大通り」周辺が市内随一の商業施設の集積地となっていくなか、常にヤングファッションを牽引する存在として、札幌マーケット発展の一翼を担ってきました。しかし、近年は札幌郊外へのショッピングセンター（SC）出店が加速し、またJR札幌駅前に一大商業ゾーンが立ち上がるなか、消費が分散し、「大通り」エリアのマーケットにおける存在感が弱まっていた。



SAPPORO PARCO



「ローリーズファーム」

流行に追われすぎない、日常のカジュアルがコンセプトのショップ。

本館

- 8F レストラン
- 7F インテリア・生活雑貨
- 6F キッズ・メンズカジュアル
- 5F メンズ・ホビー雑貨
- 4F YOUNG CASUAL(レディス)
- 3F URBAN BASIC(レディス)
- 2F レディス・カフェレストラン
- 1F セレクトファッション・ジュエリー
- B1F レディス・靴・ツアー
- B2F 靴バック・アクセサリー・化粧品

こうしたなかで、『札幌PARCO』は2005年に30周年を迎えるにあたり、既存（本館）店の隣接立地に新館をオープンしました。その狙いは、ヤングファッションにこだわる本館に対して、カップルやファミリーが楽しんで買い物ができる商業空間をつくること。そうすることで、客層や商材的な拡がりを持たせ、『札幌PARCO』を再認知頂き、同時に「大通り」エリアという街の新しい魅力づくりに繋げたいとの考えからでした。具体的には、世界50カ国で600店以上を展開するスペイン発の人気ブランド「ZARA」など札幌初登場となるブランド計6店舗と、初の新業態出店となる2店舗をはじめ、インパクトのある新規テナントの導入を進めました。また、本館の7F雑貨エリアと8Fレストランフロアを強化し、例えば新館で買い物をしたお客様が本館で食事をするというような、両館の相互補完を意図した改装を進めました。



「札幌PARCO」店長 篠塚 博志

さらに、これら新しい魅力づくりの一方で、既存テナントや販売スタッフの強化策も欠かすことができません。幸い、『札幌PARCO』は長くヤングファッションマーケットを牽引してきた実績と、そのなかで培ってきた多くのテナントからの高い評価という、絶対的な資産があります。これらをテナントとの“WIN-WIN”の関係として、いかに高めていくことができるか。まさに30年の真価が問われる今、PARCOビジネスの原点に立ち、次なる『札幌PARCO』のあるべき姿を創り上げていきたいと考えています。



新館

- 5F インポート・アメリカンカジュアル
- 4F 家具・インテリア雑貨
- 3F レディス・メンズ・生活雑貨
- 2F メンズ・レディス・キッズ
- 1F レディス・靴バッグ
- B1F ファミリーカジュアル・靴・食品



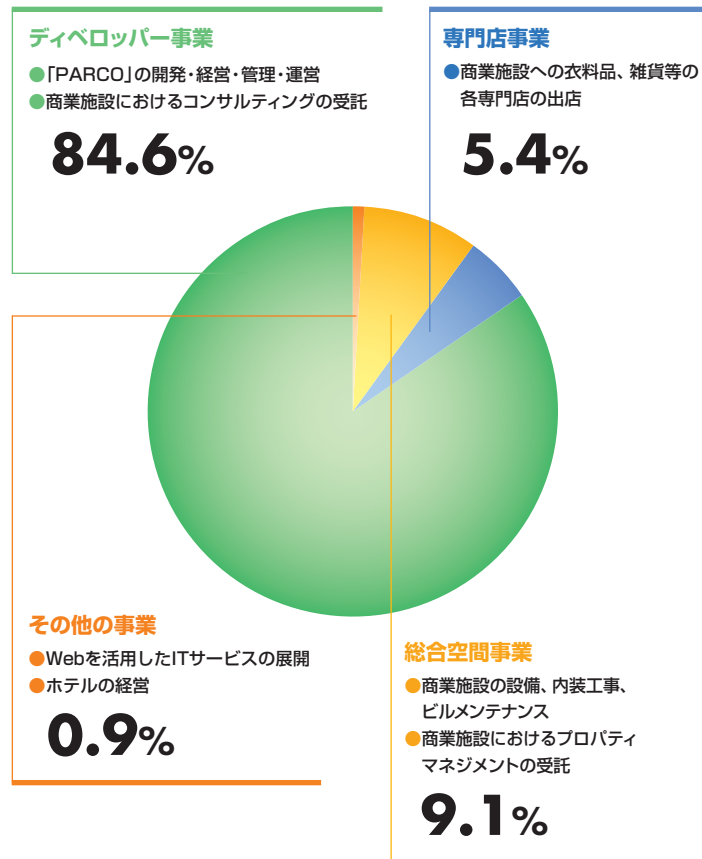
「フランフラン デザインフォーライフ」
空間をセンスアップさせるインテリア商品が充実。



「パープル&イエロー」
アメリカ西海岸を背景に健康的でセクシーな商品を展開。

本業強化を推進するとともに、 新たなビジネス基盤を構築へ

当期総売上における構成比



ディベロッパー事業



次年度以降の成長に向けた、既存店舗の改装、新規店舗の出店を加速

PARCOは、「ストアby スタア」の方針に基づき、各店舗の規模・マーケット状況・競合状況などに適した改装を順次実施し、新規テナントの導入を積極的に推進してまいりました。また施設・環境面におきましても、安全・快適・清潔で美しい空間とサービスを提供する商業施設の創造に努めてまいりました。これら当期の改装規模は、606区画、約59,100㎡、当該区画の売上高前年同期比は116.7%となりました。平成17年2月に「東京汐留ビルディング」内に、当社初の取組みとなるオフィスビル複合施設内への出店、「Pedi(ペディ)汐留」をオープンいたしました。

しかしながら、一部店舗の競合影響からの立ち直りの遅れ、大規模改装期間中の売上減少などが響き、売上高2,384億10百万円(前年同期比97.6%)、営業利益72億57百万円(前年同期比93.8%)となりました。

売上高の推移 (単位:百万円)



営業利益の推移 (単位:百万円)



専門店事業

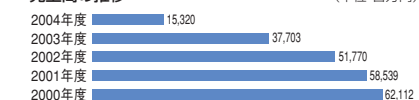


事業再編と積極的なスクラップ&ビルドを実施

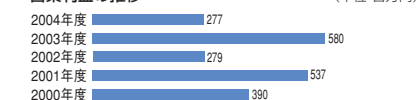
株式会社ヌーヴ・エイは、新規出店10店舗、撤退3店舗とスクラップ&ビルドを実施し店舗数を92店舗に拡大するとともに、既存16店舗の改装による既存店強化を行った結果、売上高が前年同期比104.1%と伸長いたしました。

また、前期の株式会社リプロ及び当期実施した株式会社ウェイヴの株式譲渡等による連結子会社の減少もあり、売上高は153億20百万円(前年同期比40.6%)、営業利益は2億77百万円(前年同期比47.7%)となりました。

売上高の推移 (単位:百万円)



営業利益の推移 (単位:百万円)



総合空間事業



コンサルティング物件などの外部関連工事の受注が増加

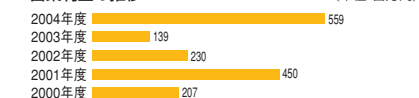
総合空間事業につきまして株式会社パルコスペースシステムズは、当社が実施した渋谷PARCOパート3をはじめとする大型店舗改装に伴いテナントからの内装工事受注が大幅に増加したほか、当社がコンサルティングを受託していた商業施設や外部ディベロッパー等の工事受注増により、売上高が前年同期比111.1%と伸長いたしました。

以上の結果、売上高は257億29百万円(前年同期比109.1%)、営業利益は5億59百万円(前年同期比401.8%)と大幅に伸長いたしました。

売上高の推移 (単位:百万円)



営業利益の推移 (単位:百万円)



その他の事業



ITサービスの向上を推進

株式会社パルコ・シティは、パルコネットワークのIT運用業務、PECカード企画といった顧客コミュニケーション業務を柱に、顧客コンサルティング機能を強化しました。

以上の結果、売上高は25億10百万円(前年同期比83.0%)、営業利益は79百万円(前年同期は営業損失4百万円)となりました。

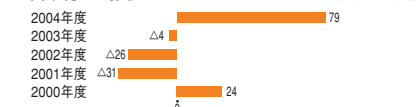
(注)当連結会計年度より、「カルチャー&IT等事業」を「その他の事業」として表示しております。

(注)セグメント別の業績における売上高には、営業収入が含まれております。

売上高の推移 (単位:百万円)



営業利益の推移 (単位:百万円)



吉祥寺パルコ、大型百貨店がひしめく激戦区で、3期連続の増収を達成

自然と都会がMIXした街—吉祥寺(東京)。新宿・渋谷から電車で20分弱という距離にありながら、駅周辺には、大型百貨店がひしめいています。そのなか、吉祥寺パルコはマーケット内において「ファッションリーディングビル」としてのポジションを確立すべく、2000年度より積極的に改装を推進。ティーンズからファミリーまで幅広い顧客の支持を受け、3期連続で増収(前年同期比3.5%増)となりました。



浜田店長
「吉祥寺パルコというブランドを作りあげたい」と意欲を語る

引き続き手腕を振るうのは、2005年3月に就任した浜田店長。利用者側の視点から細かい気配りと大胆な発想でリーダーシップを発揮しています。この勢いを加速すべく、2005年春に子供服、家庭雑貨などを見直し、売上げの12%を占める「PECカード」による固定客づくりをすすめ、来店頻度と客数を更に高めます。(改装規模/約1,400m²/25店舗) 開店25周年を迎える2005年秋には、地元商店街と連携した企画も進行中で、ますますパワーアップする吉祥寺パルコから目が離せません。



吉祥寺パルコ

深耕拡大するパルコのエンタテインメント

毎回、新しい感性を刺激するパルコのエンタテインメント。パルコ劇場をはじめとし、外部会場、クラブクアトロ、シネクイントにおいて話題作が満載。(※別表参考)

一方、コンテンツ・ビジネスでは、美輪明宏著作の新刊「霊ナンテコワクナイヨー」が10万部のヒット、また、宮藤官九郎新作書き下ろし舞台「鈍獣」は、その脚本が第49回岸田國士戯曲賞を受賞、書籍化、DVD化とマルチ展開。2004年は、映画権利出資にも参画し、三谷幸喜作「笑の大学」等のヒットを出すことができました。また、ロックバンド「モーサム・トーンバンダー」、「アナログフィッシュ」のマネジメント等も行い、様々な形でビジネスに参画しています。



「鈍獣」



「下妻物語」

自然と都会がMIXした街—吉祥寺(東京)。新宿・渋谷から電車で20分弱

2005年2月「Pedi (ペディ) 汐留」オープン。2007年以降浦和、仙台に出店

「Pedi(ペディ)汐留」は、森トラスト株式会社と住友不動産株式会社が開発した「東京汐留ビルディング」の地下1~2階・地上2階に2005年2月16日(水)グランドオープンいたしました。3層24店のテナントで構成され、「汐留シオサイト」内のオフィスワーカー、ホテル宿泊者や来街者の方々へ向けた、アーバンライフスタイルサポート型の商業施設として親しまれております。

また、新たな店舗展開として、2007年秋埼玉県さいたま市浦和駅東口に、2008年春宮城県仙台市仙台駅西口にそれぞれ出店することとなりました。



「Pedi (ペディ) 汐留」エントランス風景

営業面積4,470m²にオフィスワーカーの日常と誰もがくつろげるサービスが充実。



「仙台パルコ(仮称)」

施設計画(予定): 地下2階、地上19階、延床面積約50,000m²。
内 商業部分(パルコ出店予定): 地下1階~地上9階、延床面積約26,000m²。
2005年秋着工、2008年春開業



「浦和パルコ(仮称)」

施設計画(予定): 地下4階、地上10階、延床面積約108,000m²。
内 商業部分(パルコ出店予定) 地下1階~地上7階、延床面積約66,000m²。
2005年3月準備工事着手、2007年秋開業

株主さまアンケート調査へのご協力に対するお礼

2004年11月に実施させていただいたアンケートにご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

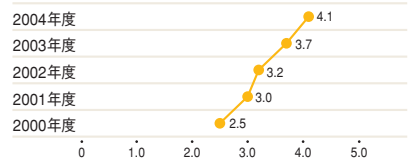
今回、ご回答の延べ人数は1684名に及び、大変多くの方々より、貴重なご意見をいただくことができました。と同時に、当社に対する期待の大きさをあらためて実感いたしました。また、株主優待について、書籍進呈を望むお声が大変多く寄せられましたことから、当社といたしましては、株主優待制度充実の一環として、2005年2月末日現在の株主さまより、新たに当社刊行書籍を1点進呈させていただくことといたします。

引き続き、皆さまのご期待に応えられるよう全力で取り組んでまいりますので、なお一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

資産

手許資金の圧縮や差入保証金・敷金の返還を受けたこと等により、総資産が前期と比較して156億95百万円減少するなど、引き続き資産のスリム化を図っています。

ROA（総資本経常利益率）の推移 (単位:%)



連結貸借対照表（要約）

(単位:百万円)

科目	当期(第66期) 2005年2月28日現在	前期(第65期) 2004年2月29日現在
資産の部		
流動資産	26,242	34,884
固定資産	161,750	168,804
資産合計	187,993	203,688
負債の部		
流動負債	45,834	54,452
固定負債	77,651	91,599
負債合計	123,485	146,052
少数株主持分		
少数株主持分	2,746	3,061
資本の部		
資本金	26,867	25,942
資本剰余金	27,107	25,368
利益剰余金	8,385	7,332
その他有価証券評価差額金	465	314
為替換算調整勘定	△316	△337
自己株式	△750	△4,043
資本合計	61,760	54,575
負債、少数株主持分及び資本合計	187,993	203,688

連結損益計算書（要約）

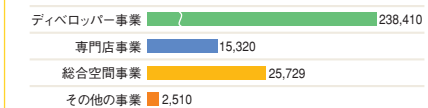
(単位:百万円)

科目	当期(第66期) 自2004年3月1日 至2005年2月28日	前期(第65期) 自2003年3月1日 至2004年2月29日
売上高	257,625	281,478
売上原価	221,114	238,560
営業収入	1,649	1,532
営業総利益	38,163	44,448
販売費及び一般管理費	29,722	35,553
営業利益	8,441	8,894
営業外収益	872	653
営業外費用	1,234	1,755
経常利益	8,079	7,792
特別利益	730	631
特別損失	4,608	4,296
税金等調整前当期純利益	4,201	4,128
法人税、住民税及び事業税	2,233	934
法人税等調整額	194	432
少数株主利益又は少数株主損失(△)	31	△30
当期純利益	1,742	2,791

売上高

総合空間事業において売上高が伸長したものの、子会社であった株式会社ウエイヴ及び株式会社リプロの株式売却による専門店事業の減少等により、売上高は、前年同期と比較して238億52百万円減少(前年同期比91.5%)となりました。

各セグメント別売上高の推移 (単位:百万円)

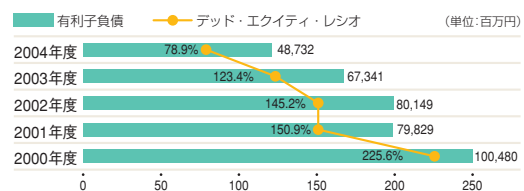


(注) 当期より、「カルチャー&IT等事業」を「その他の事業」に変更しております。セグメント別の業績における売上高には、営業収入が含まれております。

負債

バルコネットワーク内資金の有効活用に伴う短期・長期借入金減少により、負債は前期と比較して225億66百万円減少しました。有利子負債については、前期より186億9百万円減少しています。

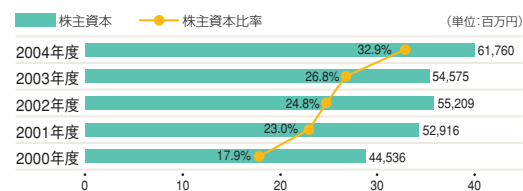
有利子負債/デッド・エクイティ・レシオ



資本

自己株式の売り出し、第三者割当増資並びに転換社債の転換に伴う、資本金及び資本準備金の増加等により、株主資本は71億84百万円増加しました。

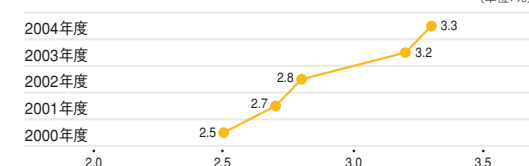
株主資本/株主資本比率



営業利益

バルコネットワークの事業再編等により、営業総利益は減少。引き続き、人件費や借地借家料等の販管費の削減に努めましたが、営業利益は前年同期と比較して4億53百万円減少しました。

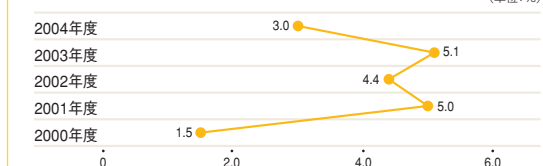
売上高営業利益率の推移



当期純利益

金融収支は改善したものの、固定資産減損会計の早々期適用並びに不動産の売却損失を計上した結果、当期純利益は、前年同期と比較して10億48百万円減少となりました。

ROE（株主資本当期利益率）の推移



営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前当期純利益42億1百万円に、非資金項目となる減価償却費や特別損失などを調整し、106億35百万円（前年同期は132億42百万円）となりました。

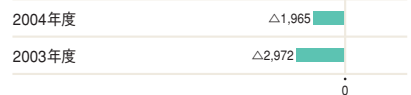
26億6百万円減 (単位:百万円)



投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によるキャッシュ・フローは、店舗改装等による有形固定資産の取得による支出67億37百万円があったものの、差入保証金・敷金の返還による収入49億7百万円があり、19億65百万円の支出額（前年同期は29億72百万円の支出）となりました。

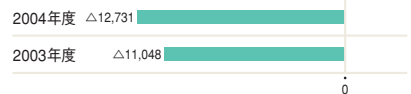
10億7百万円増 (単位:百万円)



財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動によるキャッシュ・フローは、自己株式の売り出し、売却及び第三者割当増資による収入の増加があったものの、有利子負債の圧縮を進めたことにより127億31百万円の支出（前年同期は110億48百万円の支出）となりました。

16億82百万円減 (単位:百万円)



連結キャッシュ・フロー計算書（要約）

(単位:百万円)

科目	当期(第66期) 自2004年3月1日 至2005年2月28日	前期(第65期) 自2003年3月1日 至2004年2月29日
営業活動によるキャッシュ・フロー	10,635	13,242
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,965	△2,972
財務活動によるキャッシュ・フロー	△12,731	△11,048
現金及び現金同等物に係る換算差額	4	△5
現金及び現金同等物の増減額	△4,056	△784
現金及び現金同等物の期首残高	16,041	16,825
現金及び現金同等物の期末残高	11,984	16,041

連結剰余金計算書

(単位:百万円)

科目	当期(第66期) 自2004年3月1日 至2005年2月28日	前期(第65期) 自2003年3月1日 至2004年2月29日
(資本剰余金の部)		
I 資本剰余金期首残高	25,368	25,318
II 資本剰余金増加高	1,739	50
増資による新株式の発行	306	—
自己株式処分差益	815	—
転換社債の転換による資本剰余金増加高	617	50
III 資本剰余金期末残高	27,107	25,368
(利益剰余金の部)		
I 利益剰余金期首残高	7,332	5,189
II 利益剰余金増加高	1,742	2,814
当期純利益	1,742	2,791
連結子会社の減少に伴う利益剰余金増加高	—	23
III 利益剰余金減少高	688	672
配当金	688	615
取締役賞与金	—	56
自己株式処分差損	—	0
IV 利益剰余金期末残高	8,385	7,332

貸借対照表

(単位:百万円)

科目	当期(第66期) 2005年2月28日現在	前期(第65期) 2004年2月29日現在
資産の部		
I 流動資産		
現金及び預金	10,437	11,060
受取手形	2	2
営業未収金	4,787	7,108
有価証券	10	—
製品	286	208
仕掛品	3	4
貯蔵品	0	0
前渡金	11	66
前払費用	649	613
繰延税金資産	426	1,194
短期貸付金	11	69
関係会社短期貸付金	2,010	4,973
その他	766	906
貸倒引当金	△2	△2,253
流動資産合計	19,401	23,955
II 固定資産		
1 有形固定資産		
建物	38,599	38,492
構築物	462	500
機械及び装置	280	311
車両運搬具	3	6
器具及び備品	846	790
土地	40,666	39,857
建設仮勘定	261	—
2 無形固定資産	11,906	12,300
営業権	376	752
借地権	11,014	11,014
ソフトウェア	251	241
その他	264	291
3 投資その他の資産	71,461	77,308
投資有価証券	7,975	8,059
関係会社株式	12,436	12,669
出資金	2	2
長期貸付金	819	928
長期前払費用	1,012	1,103
差入保証金・敷金	47,621	52,701
繰延税金資産	1,274	469
長期未収金	2,066	2,127
その他	128	259
貸倒引当金	△1,877	△1,012
固定資産合計	164,488	169,568
資産合計	183,890	193,523

(単位:百万円)

科目	当期(第66期) 2005年2月28日現在	前期(第65期) 2004年2月29日現在
負債の部		
I 流動負債		
支払手形	723	660
営業未払金	13,512	14,504
短期借入金	6,870	9,030
一年以内返済予定長期借入金	12,754	11,214
未払金	2,614	3,238
未払費用	805	932
未払法人税等	1,730	548
前受金	193	195
預り金	168	256
賞与引当金	476	477
返品調整引当金	10	13
単行本在庫調整引当金	65	60
一年以内償還転換社債	—	1,237
一年以内返済受入保証金	1,518	2,145
その他	1,333	931
流動負債合計	42,775	45,447
II 固定負債		
社債	14,000	14,000
長期借入金	20,028	32,042
長期未払金	281	—
退職給付引当金	185	297
役員退職慰労引当金	—	231
受入保証金	42,448	43,997
固定負債合計	76,944	90,568
負債合計	119,719	136,015
資本の部		
I 資本金	26,867	25,942
II 資本剰余金	27,107	25,368
資本準備金	26,292	25,368
その他資本剰余金	—	—
自己株式処分差益	815	—
III 利益剰余金	10,503	9,929
利益準備金	681	681
任意積立金	—	—
別途積立金	7,911	7,011
当期末処分利益	1,911	2,237
IV その他有価証券評価差額金	442	311
V 自己株式	△750	△4,043
資本合計	64,171	57,508
負債及び資本合計	183,890	193,523

損益計算書

(単位:百万円)

科目	当期(第66期) 自2004年3月1日 至2005年2月28日	前期(第65期) 自2003年3月1日 至2004年2月29日
I 売上高		
専門店売上高	231,273	236,023
その他の売上高	5,086	6,397
売上高計	236,359	242,421
II 売上原価		
専門店仕入高	204,031	208,538
その他の売上原価	3,680	4,619
売上原価計	207,711	213,158
売上総利益	28,647	29,263
返品調整引当金繰入額	—	2
返品調整引当金戻入額	2	—
差引売上総利益	28,650	29,260
III 営業収入	1,840	1,724
営業総利益	30,490	30,985
IV 販売費及び一般管理費	23,278	23,283
営業利益	7,212	7,701
V 営業外収益	539	476
受取利息	103	155
受取配当金	127	39
雑収入	308	282
VI 営業外費用	1,194	1,285
支払利息	763	873
社債利息	174	176
社債発行費	—	18
自己株式売却費用	203	—
雑支出	52	217
経常利益	6,557	6,893
VII 特別利益	302	826
固定資産売却益	0	—
投資有価証券売却益	273	113
貸倒引当金戻入益	28	22
債務保証損失引当金戻入益	—	350
子会社株式売却益	—	341
VIII 特別損失	3,810	4,114
固定資産売却損	23	5
固定資産除却損	594	863
減損損失	2,206	—
投資有価証券評価損	—	171
ゴルフ会員権評価損	—	7
子会社株式評価損	9	31
貸倒引当金繰入額	868	1,625
子会社整理損	2	1,367
特別退職金	105	41
税引前当期純利益	3,049	3,605
法人税、住民税及び事業税	1,914	609
法人税等調整額	△127	1,082
当期純利益	1,262	1,914
前期繰越利益	1,052	630
中間配当額	404	307
自己株式処分差損	—	0
当期末処分利益	1,911	2,237

利益処分

(単位:百万円)

科目	当期(第66期) 自2004年3月1日 至2005年2月28日	前期(第65期) 自2003年3月1日 至2004年2月29日
(当期末処分利益の処分)		
I 当期末処分利益	1,911	2,237
II 利益処分額		
1 配当金	404	284
2 任意積立金	—	—
別途積立金	700	1,104
900	1,184	—
III 次期繰越利益	806	1,052
(その他資本剰余金の処分)		
I その他資本剰余金		
自己株式処分差益	815	815
—	—	—
II その他資本剰余金処分額	—	—
III その他資本剰余金次期繰越高		
自己株式処分差益	815	815
—	—	—

(注) 1. 前期は、平成15年11月4日に307百万円(1株につき4円)の中間配当を実施いたしました。
2. 当期は、平成16年10月25日に404百万円(1株につき5円)の中間配当を実施いたしました。

会社が発行する株式の総数 131,000,000株

発行済株式の総数 82,210,781株

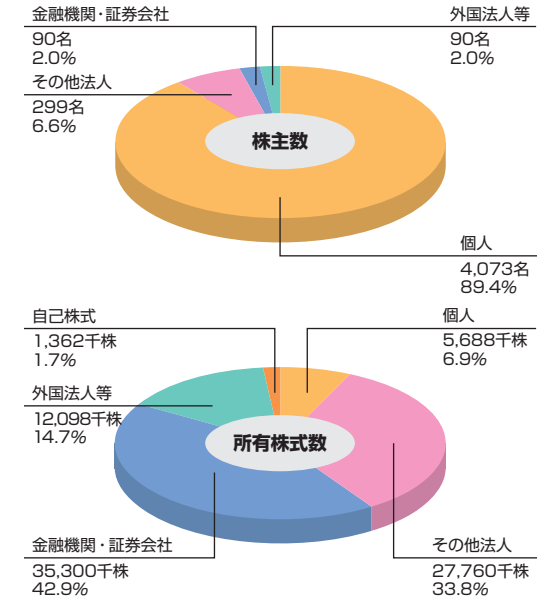
株主数 4,553名

大株主(上位10名)

株主名	当社への出資の状況	
	所有株式数(千株)	議決権比率(%)
森トラスト(株)	19,179	23.88
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	8,614	10.72
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	7,080	8.81
(株)クレディセゾン	6,740	8.39
資産管理サービス信託銀行(株)(年金信託口)	2,094	2.61
(株)みずほコーポレート銀行	1,899	2.36
日興シティ信託銀行(株)(投信口)	1,499	1.87
ザチエス マルツァン バンク エヌ イー ロンドン エス イル ムコム アカント	1,450	1.81
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口4)	1,388	1.73
モルガン・スタンレー・アンド・カンパニー・インターナショナル・リミテッド	1,305	1.62

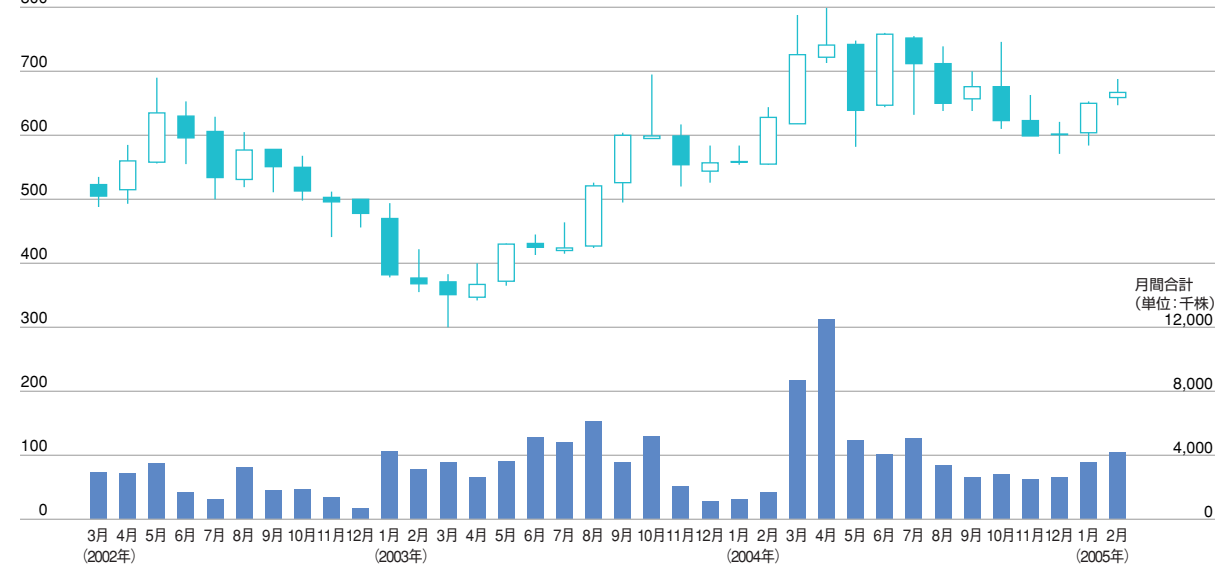
(注) 当社は自己株式1,362千株を保有しておりますが、当該株式には議決権がないため上記の大株主から除いております。

所有者別分布状況



株価・出来高の推移

(単位:円)
800



社名 株式会社 パルコ

本店所在地 東京都豊島区南池袋1-28-2
TEL:03-5391-8000

本部所在地 東京都渋谷区宇田川町4-3
TEL:03-3477-5731

設立年月日 1953年2月13日

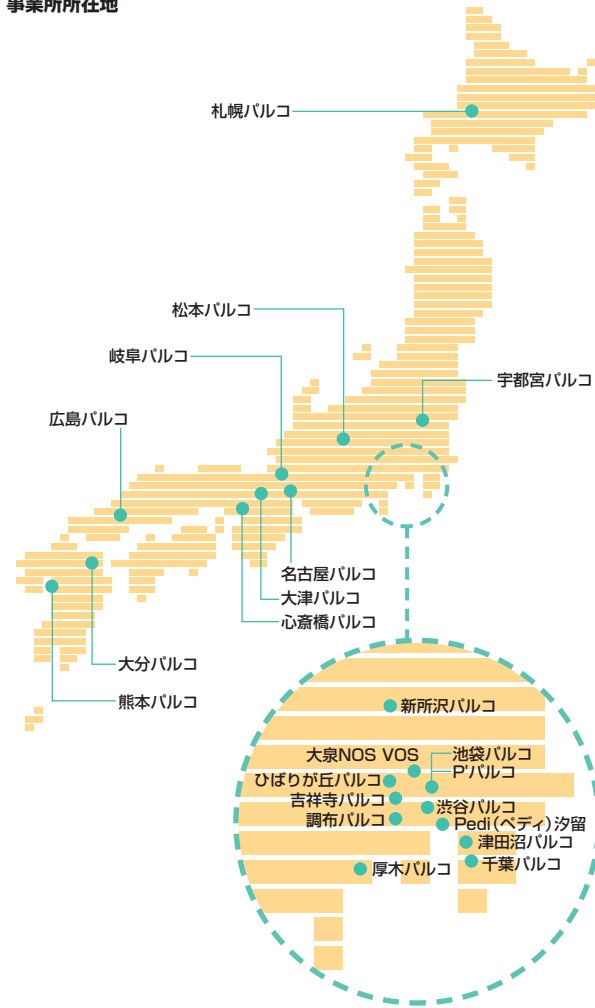
資本金 268億6,738万円(2005年4月30日現在)

従業員数 541名(男性 330名 女性 211名)
(連結従業員数 1,627名)(2005年2月28日現在)

役員

取締役会議長兼代表執行役社長 最高経営責任者(CEO)	伊東 勇
取締役兼代表執行役副社長 最高執行責任者(COO)	坂口 俊郎
取締役兼代表執行役専務	藤島 基照
取締役兼常務執行役	吉岡 猛
取締役兼常務執行役	小嶋 一美
取締役	大野 宗彦
取締役	松田 修一
取締役	土岐 敦司
取締役	宮澤 乗自
取締役	内永 ゆか子
執行役	山田 潤一
執行役	海永 修司
執行役	平出 浩朗
執行役	平野 秀一
執行役	長嶋 高志
執行役	牧山 浩三
執行役	井上 肇
執行役	山崎 浩一
執行役	阿部 正明
執行役	村田 真人

事業所所在地



(注)大野宗彦、松田修一、土岐敦司、宮澤乗自、内永ゆか子の各氏は、商法第188条第2項第7号ノ2に定める社外取締役であります。

株主ご優待 <PECカードインターナショナル> を発行いたします

(毎年2月末日・8月31日現在、1,000株以上所有の株主様を対象としております)



パルコでのショッピングが通年**5%OFF**

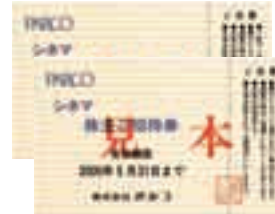
国内のパルコでのショッピングに、株主ご優待カードをご利用いただけますと、ご請求時にお買い上げ金額の5%を割引いたします。 ※一部割引の対象外となるショップがございます。

- ホテル宿泊料割引(クレストンホテル20%OFF等) 要予約
- パルコ内の映画館入場料割引
- パルコミュージアム・パルコギャラリー入場料50%OFF(一部催し物を除く)

映画館で招待券、ギャラリーパス券、カレンダー、新たに書籍もお届けします

当社施設内の映画館で招待券進呈

- 1,000 株以上の株主様に2枚(年間4枚)
- 5,000 株以上の株主様に6枚(年間12枚)
- 10,000 株以上の株主様に10枚(年間20枚)



パルコギャラリーパス券進呈 (1,000株以上)
パス券の提示で、1名様のご入場が無料となります。

パルコオリジナルカレンダー進呈
8月31日現在、1,000株以上の株主様にカレンダーを2点進呈いたします。

パルコ刊行書籍進呈
2月末日現在、1,000株以上の株主様に新たに書籍を1点進呈させていただきます。

株主メモ

決算期	毎年2月末日	名義書換代理人	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社
定時株主総会	毎年5月に開催	同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番4号 住友信託銀行株式会社 証券代行部
基準日	2月末日 (その他必要があるときは、あらかじめ公告いたします)	(郵便物送付先)	〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 住友信託銀行株式会社 証券代行部
配当金受領株主確定日	利益配当金 2月末日 中間配当金 8月31日	(電話照会先)	(住所変更等用紙のご請求) ☎ 0120-175-417 (その他のご照会) ☎ 0120-176-417 (インターネットホームページURL) http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html
1単元の株式の数	1,000株	同取次所	住友信託銀行株式会社本店及び全国各支店

- 当社は、単元未満株式の買増制度を採用しております。詳しくは、上記名義書換代理人取次所、または、証券会社社にお問い合わせください。
- 決算公告は、当社のホームページ上に貸借対照表及び損益計算書を掲載しております。(インターネットホームページURL <http://www.parco.co.jp/>)